



国名	アイルランド	オランダ	イギリス	カナダ	アメリカ
教育制度の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■イギリスの大学に近いシステムだが、直接入学をすることも可能。 ■英語力が足りない場合は大学基礎課程 (Foundation Course) からスタートすることが可能。 ■最初の1年～2年間は基礎教養課程に近く、専攻を変更することも可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ■世界ランキングのトップ100に入る大学が複数あり、高等教育のレベルは高い。 ■入学時の英語力、成績要件は高いが、一部の大学では大学基礎課程 (Foundation Course) が準備されている。 ■大学基礎課程 (Foundation Course) からの進学の場合、本科入学時に英語力を再度証明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■世界ランキングの高い大学が多数。 ■アメリカと比べて、入学時に必要とされる英語力や学費のハードルが低い。 ■1年目は大学基礎課程 (Foundation Course) からのスタート。 	<ul style="list-style-type: none"> ■アメリカと同じ教育制度だが、アメリカと比べ留学費用が抑えられる。 ■アメリカやイギリスと比べ入学難易度が高い。 ■1年目は日本と同様の一般教養からスタート。 	<ul style="list-style-type: none"> ■世界ランキングの高い大学が多数。 ■イギリスと比べて、入学時に必要とされる英語力や学費のハードルが高い。 ■1年目は日本と同様の一般教養からスタート。
入学時期	9月・1月 (学部によって違うこともあり)	9月・1月 (学部によって異なることもあり)	9月・1月 (大学によって9月のみの場合もあり)	9月・1月 (大学によって9月のみの場合もあり)	8月・1月 (州によっては、6月・3月もあり)
英語力基準	・大学基礎課程 (Foundation Course) : IELTS 5.0	・大学基礎課程 (Foundation Course) : IELTS 5.0	・大学基礎課程 (Foundation Course) : IELTS 4.5	・カレッジ : IELTS 6.0 ・4年制 : IELTS 6.5	・カレッジ : TOEFL iBT 45 ・4年制大学 : TOEFL iBT 61
合格のポイント	高校3年間での成績が重要視されるため、成績によっては希望大学への入学が認められない場合もある。IBDPを取得していれば、大学基礎課程 (Foundation) の履修の必要なく本科に入学できる大学が多い。	エッセイ、英語力、推薦状、日本の高校での成績、など総合的な評価で合否が判断される。	エッセイ、英語力、推薦状、日本の高校での成績、など総合的な評価で合否が判断される。IBDPを取得していれば、大学基礎課程 (Foundation) の履修の必要なく本科に入学できる大学が多い。	英語力、推薦状、日本の高校での成績、など総合的な評価で合否が判断される。	エッセイ、英語力、推薦状、日本の高校での成績、など総合的な評価で合否が判断される。
授業料相場(年間)	120 万円～300万円	120 万円～300万円	120 万円～300万円	120 万～500万	80 万円～600万円
1年間の滞在費用相場	90～150万円	90～150万円	80～140万円	95万～120万	70～140万円
大学の数	私立 1校 公立 8校	私立 1校 公立 15校	私立 1校 公立 120校	私立 80校 公立 18校	私立 2068校 公立 750校